

## 食道粘膜にみられる新たな食道がん発生危険因子の探索

### 1. 研究の対象

当院で食道がんに対する内視鏡治療歴があり、また当院での経過観察が予定されている方が対象となる可能性があります。

### 2. 研究目的・方法

食道を内視鏡で観察する際にヨード液を撒布しますと、正常な食道上皮は茶褐色に変色しますが、食道がんの部位では茶褐色に染まらず、いわゆるヨード不染帯となり、食道がんの診断に有用です。また食道がんだけではなく、食道の粘膜に炎症や前がん病変がある場合にもヨード不染帯となり、食道全体に大小さまざまな多数のヨード不染帯をまだら状に認めることを、多発ヨード不染帯(まだら食道)といい、食道がん発生の危険因子とされており、

上記のようにヨード液は食道を観察することは非常に有用なのですが、ヨード液は強い刺激性があり、撒布後に胸痛や胸やけなどの症状を訴える方がおり、症状は数時間から1日ほど続く場合があります。

近年、従来では発見が難しかった小さな病変をより観察しやすくするために、光デジタルによる画像強調を用いた観察法-「画像強調内視鏡観察」が行われるようになっております。食道がんの診断については、「画像強調内視鏡観察」による発見率が高いことが多数報告されており、ヨード液を撒布して観察した場合より「画像強調内視鏡観察」の方が高かったという報告も一部にはあります。「画像強調内視鏡観察」はボタン1つ切り替えることで簡単に行うことができ、当院でも通常の定期検査時にも「画像強調内視鏡観察」を行っております。

以前当院で行った検討から、「画像強調内視鏡観察」のある所見が、食道がんの危険因子である「まだら食道」と関連していました。すなわち、その所見が食道がんの新たな危険因子であることが間接的に示唆されました。

今回、「画像強調内視鏡観察」のある所見を認めるかどうかで、その後の食道がんの再発率に差があるかどうかを調べることで、その所見が食道がんの危険因子であることを直接的に検証することができます。

ヨード染色を用いずに食道癌の危険因子が分かれば、内視鏡検査時のヨード撒布を省略できる可能性があり、患者さまの苦痛軽減および検査時間の短縮につながります。また食道がんの高危険群と思われる方には、より短期間の検査間隔や検査方法を行うことで、食道がんの早期発見につながります。

#### (方法)

当院で食道癌に対して内視鏡治療歴があり、また当院での経過観察を予定している患者において、定期内視鏡検査時に「画像強調内視鏡観察」のある所見を認めるかどうかを調べ、その後食道がんの再発率を調べます。

通常の診療で予定されていた以上の検査法や検査間隔の短縮はなく、新たなご負担はありません。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試量：なし

情報：病歴、放射線治療の治療歴、カルテ番号、内視鏡画像 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 消化管内科 石原 立／松野 健司

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：

大阪国際がんセンター 消化管内科 石原 立

以上